

9火

特別講義
いのちと性の大切さ
藤田 桂子師

講義

10水,16火,17水

聖書の人々 永井 学院長

聖書に登場する人物(預言者や士師、王など)それぞれの歩みや、神との関係などを考察し、信仰者としての在り方を学びます。

講義

11木,12金 聖書交読

聖書を一人一節づつ輪読します。



講義

30火,31水

12小預言書 永井 学院長

「ホセア書」「ヨエル書」など、預言書のなかでも、比較的短い「小預言書」と呼ばれる、十二の預言書について学びます。

18木,19金

エゼキエル書 蟹田 寛師

「イザヤ書」「エレミヤ書」と並び、三大預言書と呼ばれるうちのひとつ「エゼキエル書」について学びます。

講義

23火~26金

伝道実践

近隣の町でのトラクト等の配布や訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、伝道ライブなども行います。

拡大宣教学院 30周年記念聖会

4月17日(火) 14:00 ~ 19:00 主講師:キム・ジョンイル師
韓国スクール・オブ・オーガニック・プランターズ校長

4月18日(水) 10:00 ~ 17日 11:00 から入学式、卒業式が行われます。

ぜひ、ご参加ください。お祈りください。

Column 学院長のデスクから

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

すでにお知らせしてまいりましたとおり、本年、拡大宣教学院 30周年を迎えます。これまでのお祈りとご支援に心より感謝いたします。これからもより一層のご加禱、応援をよろしくお願いたします。

ご案内してまいりましたとおり、4月17日(火)、18日(水)に記念聖会を開催いたします。ぜひご参加ください。皆さまのお越しを心よりお待ち申し上げております。

新年の守りと祝福を祈りつつ。 学院長 永井信義

編集後記

Editor's Note

Happy New Year!! 主の恵みによって、こうして新しい年を迎えられたこと感謝します!!

さて、毎年恒例となっている「漢字一文字で表す一年の抱負」を掲載しておりますが、今回いろいろと漢字を調べていたところ、新しい発見があったので、それをシェアさせて頂ければと思います。

その新しい発見と言うのが、「弁」という漢字です。実は、この「弁」という漢字、訓読みで「弁(わかま)える」とも読みます。(ご存知の方もいるかと思いますが)これは、ローマ12章 2節の「神のみこころは何か、……をわかまえ知る」という御言葉を調べていて発見したことです。

この「弁」という字は、他に「弁(かた)る」とも読み、「話す」ことや「言葉遣い」を表す場合であったり、液体や気体の出入りを調節、制御する「弁(バルブ)」として用いられたりします。

これらのことで思わされたのは、私たちクリスチャンは、時が良くても悪くても、福音また御言葉を語る必要がありますが、それでも自分の身分や相手、また時と場所などを「弁え」、舌を制するように言葉を調節、制御しながら「弁る」必要があるのではないかと、ということです。私事で言えば、今年から「教会主事」となった訳ですが、だからこそ、何が御心かは勿論、あらゆる面でしっかり弁えていきたいと思っております。



Kakudai Mission Institute No.353

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ

完成して間もないゴスペルタウン



拡大宣教学院 創立30周年

拡大宣教学院 総務 谷後 義則 師



1988年設立の拡大宣教学院は今年5月で30年目を迎える。記録的な長雨による建設工事の遅れから、工所用宿舎として設置されたプレハブ小舎を教室として拡大宣教学院の授業が始まった。その状況、また建設現場の進捗状況を、これを支えている教会の信徒や、後援者に逐一知らせるために、「拡大宣教学院」ニュースとして、1988年5月22日付を第1号としてこの機関紙は誕生した。そしてその『巻頭言』を15年間に亘って執筆して下さったのが釘宮義人先生であった。



後に「マグニファイ」となる機関誌「拡大宣教学院」の記念すべき第1号

2007年に出版された『おおひら村ゴスペル・タウン物語』で「忘れ得ぬ人々」として先生のごことが次のように紹介されている。「拡大宣教学院初代理事長、釘宮義人先生(キリストの福音大分教会牧師)は、東北の一隅に誕生したこの神学校を全国区に押し上げた方である。1988年の開校から2003年までの15年間この超教派の神学校で講師を勤め、同時に月刊機関紙「マグニファイ」の『巻頭言』執筆の重責を果たされたが、これは常人の出来ることではない。創立者である永井明先生と二人三脚で学院の精神的土台を築いた。」

(原文のまま)

目下、当学院学院長、永井信義先生は、全国紙のクリスチャン新聞・福音版に「晴考雨読」を連載されているが、この1月号で153回となり、今年には14年目を迎える。これは凄いことでも真似はできないと思う。しかしこの学院には15年間、180回連載を果たした先人が居られた。「滅相もない。わたしのことをそう褒めなさんな。」あくまでも謙遜な先生の温顔が目前に浮かんでくる。

(2012年10月5日、91歳で召天)

今年は、日本の年号も平成30年、学院創立から30年と重なる。私もこちらに来てから30年になる。当初、超教派の牧師が集まって年に4回「東北リバイバル徹夜祈禱会」を開いていて、私も必ず参加していた。その中で、福島中央キリスト教会の渡部幸雄先生が「谷後先生、東北には30年かかりますよ。」と言われたのを今思い出す。拡大宣教学院のあるゴスペルタウンは大衡村の東の端にあり、行政区で「衡東区」と呼ばれているが、去年、村の大運動会に拡大宣教学院の学生とスタッフが出場したりで、「衡東チーム」が2位となった。これは開闢以来初めてのことで区民は喜び、直後に開催した「ゴスペルタウンまつり」には、近所の方が大挙押し掛けた。また11月30日には村の「社会福祉協議会法人化30周年大会」に当り、教会の地域に貢献した30年の功績に対して感謝状が贈られるなど、30年という「節目」を感じさせる出来事が重なった。

イエス様が「公生涯」(伝道生活)に入られたのも30歳であった(ルカ3:23)。

両親と一緒に宮に上った12歳の時、すでに教師たちの真ん中に座って堂々と彼等と亘りあった神の子イエス様でさえ、30年間この世での生活を過ごし、多くの人々と接して苦楽を共にされたことを思えば、今からでも出来ることは何でもしたいと願う者である。

拡大宣教学院を30年間支え続けて下さった皆様に新年号を通して心からの感謝を申し上げますと共に、今年4月に行われる「記念会」で是非お目にかかりたいと願っています。



釘宮師75歳、谷後師60歳のとき当時の谷後師の自宅前で

CONTENTS

巻頭メッセージ
拡大宣教学院
創立 30 周年
谷後 義則 師

漢字一文字で表す
2018年の抱負

BOOK あらかると

12月のトピックス

漢字一文字で表す2018年の抱負

東北中央教会 牧師 大野 護

翔

「翔」には広大な空を自由に移動する意味があります。主の開かれる御心の大空へ、いつでも自由に飛んでいけるように思いを込めて翔としました。従順で柔軟な1年となりますように。

「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」(詩篇 19:1)

東北中央教会 主事 木原 成美

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。」(ヘブル 11:6)

信

たとえ、何かを失うように見える時も、絶望的に見える時も、すべてが神様の御手の中にあることを覚えて、神様に期待して歩みます!!

研修生 中山 愛希子

「『わたしは、あなたを立てて多くの国民の父とした』と書いてあるとおりである。彼はこの神、すなわち、死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのである。」(ローマ 4:17 / 口語訳)

無から有を呼び出す神。無いものを有るものようにされる神。何も無いところに神様が奇跡をおこなわれるのを見る一年となる事を信じて期待します!

有

拡大宣教学院スタッフ 中村 美保

「彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日を待つ。」(箴言 31:25)

力とは、聖霊の力。気品とは、練られた品性。後の日は、主の再臨の日。2018年は、微笑んで主の日を待ち望み、一日一回は必ず笑う日にしたいと思っています。

笑

東北中央教会 主事 東海林 真

基

「基本」的に「神の国とその義とをまず第一に求め」る。そして、何かを決めるときや、選択、判断など、考え方のすべての「基準」を「神のみこころは何か」としていく。そうやって「基督(キリスト)」を自分の生活や人生の「基(もと)」として歩む。その様な超「基本」的なところに立ち返り、それらを大事にしていきたいです。

研修生 松本 侑香里

今年の漢字は何かと思って祈っていたら、詩篇23篇5節の「私の杯は、あふれています」という言葉が浮かびました。どういう意味なのかわかりませんが、今年一年でわかることでしょう(笑)。楽しみにしています!

杯

研修生 地主 真由美

「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。」(詩篇 100:4)

もっと奥の間へと、もっと奥の間へと。愛する主との深い交わりを味わいながら礼拝をお捧げする毎日を歩ませていただきます。

入

第二五期生 佐藤 慎

来年は一からやり直すわけではないですが、それぐらいの謙虚さを持って過ごしていきたいなと思います。

一

また、一は「はじめ」とも読むことが出来ます。はじめの幼子のような信仰と奉仕、授業、経験などで得た知識を合わせ持ちつつバランスのとれた信仰を持ちたいと感じています。

第二六期生 東海林 悦子

覚

「覚えよ。主の契約をとこしえに。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。」(I 歴代誌 16:15)

この御言葉はダビデが主に仕える者たちと共に、主を覚えて感謝し、ほめたたえた賛美(I 歴代誌 16:8~36)の中の1節です。新しい一年、主が置いて下さった場所で、共に主に仕える方たちと主を覚えて感謝を捧げ、賛美する一年にしたいと思います。

その方は私に仰せられた。「人の子よ。あなたの前にあるものを食べよ。この巻き物を食べ、行って、イスラエルの家に告げよ。」……そこで、私はそれを食べた。すると、それは私の口の中で蜜のように甘かった。(エゼキエル 3:1,3 から抜)

第二四期生 黒田 広輝

今春で拡大を卒業します!とはいえ、まだまだ未熟ですのでさらに学び続けます。卒業することで見えてくること、新しくチャレンジできることもあると思います。学習意欲を持ち、喜んで訓練を受けることを一年の目標とします!

磨

第二六期生 掛端 舞子

純

「上からの知恵は、第一に純真」(ヤコブ 3:17) 「神のことばは、全て純粋」(箴言 30:5) 永遠の御国の中で、神の子どもとして御父と親しい関係を深めていく1年間にしたいと思います。

第二七期生 福森 雄一

モーセやその後を継いだヨシュア、そしてカレブが、主に従い通した人物であった事を、昨年秋に集中して学ぶ機会があり、「従い通す」ということが信仰生活の中で特に重要だと感じています。ヨシュア記 14:9 にもあるように、神さまは従い通す者に祝福を約束されています。

順境な時も逆境の時も、目に見えるものに流されず、素直な心で「はい、感謝します!」と神さまに従い通していきたいと思っています。

従

BOOK あらかると

永井信義

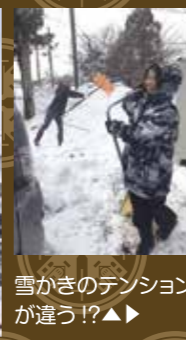
2018年の最初にご紹介したいのが、ギリシャ正教会アメリカ大主教区のコニアリス神父(1993年名誉退職)著『落ちこんだら』(ヨベル)です。だれにも落ちことがあります。そんな時、「神はどんな苦しみ、どんな心配、どんな絶望よりも『もっと大きい』ことを知って、一人でも多くの人々が、少しでも元気になってもらいたい」という思いで記された、171の断章です。

「落ちこんだら」、ぜひ読みたい本ですが、毎日、一章ずつ、少しずつ、ゆっくりと、神の偉大さを知る旅を導いてくれる一冊でもあります。



●ゴスペルタウン 12月のトピックス●

数年ぶりの大雪!! 真っ白な雪に彩られるゴスペルタウン



雪かきのテンションが違う!▶▶



12/27~28にかけて、ここ数年では一番と言える量の雪が降り、ゴスペルタウンが真っ白の雪化粧に覆われました。少なくとも、私が入学して以降初めての降雪量でした。